次の文章は、中国の『戦国策』という書物にある話である。初めの三文は訓読文で、そのあとは書き下し文で示した。これと【解説】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【前書き】昔の中国の戦国時代、趙の国が、となりの燕の国を攻めようとしていた。そのとき、燕のために趙の恵王のもとをたずねた蘇代という人物が、ここに来るとちゅうに川べりで見たこととして、次のような話をした。

蚌方出テ曝ス。而シテ鷸啄ム其ノ肉ヲ。蚌合シテ而箝ム其ノ喙ヲ。

鷸曰はく、「今日雨ふらず、明日雨ふらずんば、即ち死蚌有らん。」と。蚌も亦た鷸に謂ひて曰はく、「今日出ださず、明日出ださずんば、即ち死鷸有らん。」と。1両者相舎つるを肯んぜず。2漁者得て之を并せ擒ふ。

（『戦国策』による）

（注）蚌＝どぶ貝（はまぐりとする説もある）。方に＝ちょうど。曝す＝貝がらを開いて、日なたぼっこをする。鷸＝しぎ（水辺にすむ鳥）。啄む＝くちばしでつつく。合して＝貝がらを閉じて。箝む＝はさむ。喙＝くちばし。即ち＝すぐに。死蚌＝死んだ蚌。出ださず＝（くちばしを）はなさない。相＝おたがいに。舎つる＝はなす。肯んぜず＝承知しない。漁者＝漁師。并せ＝いっしょに。擒ふ＝つかまえる。

【解説】

①この話は、中国の戦国時代のことを記した『戦国策』にある。そのころの中国は、いくつもの国に分かれ、たがいに争っていた。蘇代のように、各国の王をたずね、ことばの力で国と国との関係を動かした人々を「遊説家」という。王の説得に失敗すれば、命を失うおそれもあった。

②蘇代は、今まさに燕を攻めようとしている趙の王に向かって、いきなり「燕を攻めないでください」とは言わなかった。まず、川べりで見たという、鳥と貝の出来事を語り始めたのである。

③日なたで貝がらを開けていた蚌の肉を、鷸がついばむ。蚌はすぐに貝がらを閉じて、鷸のくちばしをはさんでしまう。鷸と蚌は、たがいに相手をおどすことばを言い合う。どちらも、相手が先に弱るのを待って、一歩も引こうとしない。そこへ通りかかった漁師が、動けなくなっている二つを、まとめてつかまえてしまった。

④話を終えると、蘇代は、趙と燕が長く争えば、両国の人々がつかれはててしまうと述べ、「臣強秦の漁父と為らんことを恐るるなり。」としめくくった。「臣」は家来が王に向かって自分をさすことば、「漁父」は漁師のことである。秦は、西にある強い国であった。蘇代は、川べりの三者を、そのまま今の三つの国に重ねてみせたのである。

⑤恵王は、この話を聞いて、燕を攻めるのをやめたという。もし蘇代が理屈だけで説いていたら、敵国の王は耳をかさなかったかもしれない。だれにでもわかる動物の話にしたことで、恵王は、争いを続けた先に何が待っているのかを、目の前に見るように思いえがくことができたのだろう。

⑥この話から、「漁夫の利」という故事成語が生まれた。二者が争っているすきに、第三者が苦労せずに利益を得ることのたとえである。争いに夢中になると、まわりが見えなくなる。二千年以上も前の話だが、私たちの身の回りにも、思い当たることがあるのではないだろうか。

（【解説】は創心館オリジナル文章）

問一 訓読文の第二文の「鷸啄二其ノ肉一ヲ」を、書き下し文に直しなさい。

問二 訓読文の第三文の中で、書き下し文にするときに読まない字を一字抜き出しなさい。また、そのような字を何というか。漢字三字で書きなさい。

字

名前

問三 鷸の会話の「今日雨ふらず、明日雨ふらずんば、即ち死蚌有らん」の意味として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今日も明日も雨がふらなければ、くちばしをはさまれたおれが死んでしまうだろう。
イ 今日も明日も雨がふらなければ、おまえ（蚌）はひからびて死んでしまうだろう。
ウ 今日も明日も雨がふれば、おまえ（蚌）は川に流されてしまうだろう。
エ 今日か明日に雨がふれば、二人とも助かるだろう。

問四 1両者相舎つるを肯んぜずは、白文では「両者不肯相舎」となる。書き下し文の読み方になるように返り点をつけたものとして正しいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 両者不肯相舎　イ 両者不肯相舎
ウ 両者不肯相舎　エ 両者不肯相舎

問五 2漁者得て之を并せ擒ふとあるが、漁師が両方をつかまえられたのはなぜか。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鷸と蚌が、雨を待って川の中にかくれていたから。
イ 鷸と蚌が、たがいに相手をはなそうとせず、動けなくなっていたから。
ウ 鷸と蚌が、漁師に助けを求めて近づいてきたから。
エ 鷸と蚌が、争いに負けて、どちらも死んでいたから。

問六 蘇代の話の中の鷸と蚌は、それぞれどの国をたとえたものか。国の名前を、それぞれ漢字一字で書きなさい。

鷸

蚌

問七 「漁夫の利」ということばが当てはまる場面として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 兄と弟がケーキを取り合っている間に、妹が食べてしまった。
イ 毎日こつこつ練習を続けて、大会で優勝できた。
ウ 二つのチームが協力して、大きな仕事をやりとげた。
エ 弟とけんかをしたが、すぐに仲直りできた。

問八 恵王が燕を攻めるのをやめたのはなぜか。「秦」「争い」という二つのことばを使って、五十字以上、六十字以内で書きなさい。

解答（答えと短い解き方）

漢文の返り点・書き下し 標準① 故事「漁夫の利」

本文の読解

問一 鷸其の肉を啄む

「鷸」「其」を読み、一点の「肉」まで読んで二点の「啄」に返る。送り仮名はひらがなにする。

問二 字　而　名前　置き字

第三文の「而」には送り仮名がなく読まない。このような字を置き字という。

問三 イ

「死蚌」は死んだ蚌。雨がふらなければ、貝がらを閉じたままの蚌はひからびて死ぬぞ、とおどしている。

問四 ウ

読む順は「両→者→相→舎→肯→不」。一点の「舎」から二点の「肯」、さらにレ点で「不」に返る。

問五 イ

直前の「両者相舎つるを肯んぜず」（どちらもはなすことを承知しない）が理由。

問六 鷸　趙　蚌　燕

先にしかけた鷸は趙、反撃する蚌は燕、両方をつかまえた漁父は秦のたとえ。

問七 ア

「漁夫の利」は、二者が争っているすきに、第三者が苦労せずに利益を得ること。

問八 （例）趙と燕が争いを長く続けて両国ともつかれはてたら、そのすきに強い秦に両方とも攻め取られてしまうと気づいたから。

趙（鷸）と燕（蚌）が長く争えば、両国ともつかれはて、強い秦（漁父）に両方とも取られてしまう。